

会員番号

氏名

生年月日

2024 年度  
第 167 回日商簿記検定目標  
公開模擬試験

問題用紙

3 級

(制限時間 60 分)

(本試験の際には、次のような注意事項がございます。本答練の答案作成・提出に際しては、2.~4.にご留意ください。)

受験者への注意事項

- 本冊子は持ち帰りできませんので全ページを必ず提出してください。持ち帰った場合は失格となり、以後の受験をお断りする場合があります。
- 答えは、問題文の指示に従い定められたところに、誤字・脱字のないよう、ていねいに書いてください。
- 答案の記入にあたっては、黒鉛筆または黒シャープペンシルを使用してください。仕訳問題の答案の記入方法は、裏表示を確認してください。
- 問題および答案用紙の余白は計算用紙として使用できます（解答欄にかぶらないようにしてください）。

資格★合格クリアール

第1問 (45点)

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、設問ごとに最も適当と思われるものを選び、記号で解答すること。なお、消費税は指示された問題のみ考慮すること。

- 事務用のデスクトップ型パソコン¥510,000 およびスキャナー機能付きプリンター¥420,000、ならびに印刷用紙¥3,000、各種文房具¥2,000 を購入し、代金は消費税(10%)とともに小切手を振り出して支払った。  
ア. 租税公課      イ. 消耗品費      ウ. 備品      エ. 仮払消費税      オ. 当座預金      カ. 雑損
- (株)沖縄食堂に対して商品¥270,000(店頭販売価額)を販売し、代金のうち¥70,000は先方振出しの小切手を受領し(ただちに当座預金口座に預け入れた)、残額に発送運賃相当額(¥3,000)を加えた金額を掛けとした。また、同日中に運送会社に対して発送運賃¥3,000を現金で支払った。  
ア. 立替金      イ. 売上      ウ. 発送費      エ. 売掛金      オ. 当座預金      カ. 現金
- 東京スカイ銀行から¥600,000を借り入れるに際し、同額が普通預金口座に振り込まれ、利息を上乗せした金額による約束手形を振り出した。借入期間は96日、利率は年5.475%であり、利息は1年を365日として日割りで計算する。  
ア. 借入金      イ. 支払手形      ウ. 手形借入金      エ. 支払利息      オ. 普通預金      カ. 当座預金
- 従業員に係る本年度分の雇用保険料¥432,000を一括して普通預金口座から納付した。このうち¥144,000は従業員負担分(月額相当額¥12,000)であり、残額は当社負担分である。従業員負担分については、4月から6月までの3ヶ月分は毎月の給料支給額から天引き済みであるが、7月以降の9ヶ月分は当社がいったん立て替えて支払い、7月以降の月々の給料支給額から天引きする予定である。  
ア. 従業員立替金      イ. 普通預金      ウ. 社会保険料預り金      エ. 仮払金      オ. 法定福利費  
カ. 前払金
- 当社では、小口現金について定額資金前渡制度を採用している。本日、各部署の用度係から1週間の使用報告を合計で次のように受け、経理部が管理する大金庫に保管していた現金(現金勘定により計上している)より補給を行った。  
タクシー料金¥7,800      印紙代¥3,000      郵便料金¥2,400      茶菓子代¥12,000  
ア. 租税公課      イ. 通信費      ウ. 旅費交通費      エ. 現金      オ. 雑費      カ. 雑損
- 本日(期中)の営業時間終了後、現金の実際有高を確認したところ¥405,000となっていた。現金勘定残高¥390,000との不一致原因については不明であり、明日以降に調査することとした。  
ア. 現金      イ. 小口現金      ウ. 雑益      エ. 雑損      オ. 現金過不足      カ. 当座預金
- かねて大阪螺子株式会社に対する売掛金¥1,200,000を電子債権記録機関の記録原簿に発生記録していたが、本日、決済期日につき、当社の普通預金口座に入金された。  
ア. 受取利息      イ. 売掛金      ウ. 電子記録債務      エ. 電子記録債権      オ. 普通預金      カ. 現金

採点欄	
第1問	

3 級 ①

商業簿記

第1問 (45点)

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				

(次ページに続く)

8. 次の納付書のとおり、普通預金口座より税金の納付を行った。

(納付書) 領収済通知書			
科目	法人税	本 税	330,000
		〇〇〇税	
		△ △ 税	
住 所	東京都港区〇〇	□□税	
		××税	
氏 名	株式会社六本木商事	合計額	¥330,000
		納期等 X60401 の区分 X70331	中間申告 確定申告
		出納印 X6. 10. 27 赤坂銀行	

ア. 法人税、住民税及び事業税      イ. 租税公課      ウ. 仮払消費税      エ. 未払法人税等      オ. 普通預金  
カ. 仮払法人税等

9. 商品¥321,000(税抜価額)を仕入れ、代金のうち¥60,000はかねて支払っていた手付金を充当し、消費税(10%)を含めた残額については先方宛ての約束手形を振り出した。併せて、商品の引取りに際して運送料¥2,000を運送会社に現金で支払った(運送料に係る消費税は問題の便宜上無視する)。

ア. 現金      イ. 仕入      ウ. 租税公課      エ. 支払手形      オ. 前払金      カ. 仮払消費税

10. 当社は業務用ICカードへのチャージ(入金)を行った際には仮払金として計上している。本日、従業員より今週における業務用ICカードの使用状況について次のとおり報告を受けたため、使用額を適切な費用の勘定に振り替える。

公共交通機関の利用代金：¥9,000  
社内閲覧用の雑誌購入代金：¥3,000

ア. 小口現金      イ. 車両運搬具      ウ. 仮払金      エ. 旅費交通費      オ. 消耗品費      カ. 雑費

11. かねて仕入先である(株)京都商事宛てで振り出していた約束手形¥894,000につき期日が到来し、当社の当座預金口座から決済された。

ア. 受取手形      イ. 普通預金      ウ. 当座預金      エ. 買掛金      オ. 支払手形      カ. 仕入

12. 従業員に対する給料¥990,000および従業員が業務中に立替払いしていた経費相当額¥60,000(従業員からの報告および領収書提出に伴い、適切な費用および未払金を計上済み)につき、所得税の源泉徴収額¥69,000および社会保険料の従業員負担分¥72,000を差し引いて、当社の普通預金口座から従業員が指定する各預金口座に振り替えて支払った。

ア. 普通預金      イ. 雑費      ウ. 未払金      エ. 給料      オ. 所得税預り金      カ. 社会保険料預り金

13. 先月のクレジット払いによる商品の販売代金¥2,400,000につき、信販会社に対する手数料を差し引いた金額が当社の普通預金口座に入金された。信販会社に対する手数料は代金の3%であり、先月の売上計上時に費用として認識している。

ア. 普通預金      イ. クレジット売掛金      ウ. 電子記録債権      エ. 買掛金      オ. 受取手数料  
カ. 支払手数料

14. 取引先のT社につき裁判所により破産手続の開始が決定され、同社に対する売掛金¥300,000(このうち¥60,000は当期首に商品を販売したことによる分であり、残額は前期以前に計上された分である)を貸倒れとして処理することとした。なお、貸倒引当金の残高は¥280,000である。

ア. 売掛金      イ. 繰越商品      ウ. 貸倒引当金      エ. 貸倒引当金戻入      オ. 貸倒引当金繰入  
カ. 貸倒損失

採点欄	
第1問	

3 級 ②

商業簿記

(前ページより)

	借方科目	金額	貸方科目	金額
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				

(次ページに続く)

15. 本日の定時株主総会において、繰越利益剰余金を次のとおり処分することが決議された。なお、当社の発行済株式総数は300株である。

株主配当金：1株当たり¥4,500

利益準備金積立額：株主配当金の10分の1

ア. 普通預金      イ. 未払配当金      ウ. 資本金      エ. 利益準備金      オ. 繰越利益剰余金      カ. 損益

3 級 ③

商 業 簿 記

採 点 欄	
第 1 問	

(前ページより)

	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
15				

第2問 (20点)

(1) 次の各文章の①～⑩に入る適切な語句を、下記の語群から選んで答えなさい。なお、同じ番号には同じ語句が入るものとする。

- 各企業は毎年の事業活動を継続していく中で、通常、1年ごとに期間を区切って決算を行い、財務諸表を作成する。ここで決算を行うために区切られた各期間のことを(①)といい、各(①)の開始時点を(②)、終了時点を(③)、(②)から(③)までの間のことを(④)という。
- 簿記を通じて作成される会計帳簿は、大きく(⑤)と補助簿に分類することができる。仕訳帳と(⑥)は、このうち(⑤)に該当し、複式簿記を行う際に欠かせないものである。補助簿については、特定の取引の明細として作成する(⑦)と、特定の勘定の明細として作成する(⑧)に分かれる。一般的に、現金出納帳、当座預金出納帳、小口現金出納帳、売上帳、仕入帳、受取手形記入帳、支払手形記入帳は(⑦)に分類され、商品有高帳、売掛金元帳(得意先元帳)、買掛金元帳(仕入先元帳)、固定資産台帳は(⑧)に分類される。
- 決算手続において行われる会計処理には、決算整理と(⑨)がある。決算整理とは、(⑤)上の各勘定について、(③)時点の財政状態および当(①)の経営成績を示す適正な残高に修正するための会計処理をいう。それに対して(⑨)とは、会計帳簿において当期純損益を算定し、(③)純資産額(とくに株式会社の場合は(③)の(⑩)勘定の次期繰越額)を確定するとともに、会計帳簿の締切りを可能とするために行う一連の会計処理をいう。

【語群】

決算手続	開始記入	会計期間	仕訳	転記
主要簿	補助簿	仕訳帳	総勘定元帳	補助記入帳
補助元帳	試算表	精算表	勘定口座	期首
再振替	期中	期末	決算整理	決算振替
資本金	利益準備金	繰越利益剰余金	損益	次期繰越

(2) 次の X3年6月25～30日の間の取引 および答案用紙に示した X3年6月24日時点の残高に基づいて、X3年6月30日時点の残高試算表を完成しなさい。

X3年6月25～30日の間の取引

- 25日 従業員に対する給料(総支給額¥570,000)について、所得税の源泉徴収額¥114,000を差し引き普通預金口座からの振替えにより支払った。
- 26日 神戸商店に対して商品¥780,000を売り上げ、同額の約束手形(先方振出し)を受け取った。
- 27日 6月24日の株主総会で決議された株主配当金¥360,000について、普通預金口座からの振替えにより支払った。
- 28日 明石商事より商品¥255,000を仕入れ、代金は掛けとした。
- 29日 姫路商店に対する売掛金¥270,000について、先方振出しの約束手形により回収した。
- 30日 赤穂通販株式会社に賃貸している本社ビルの一部フロアに関して、当月分の家賃¥180,000が普通預金口座に振り込まれた。
- 〃 現金¥165,000を普通預金口座に預け入れた。

採点欄	
第2問	

3 級 ④

商業簿記

第2問 (20点)

(1)

①	②	③	④	⑤
⑥	⑦	⑧	⑨	⑩

(2)

残高試算表

借方		勘定科目	貸方	
X3年6月30日	X3年6月24日		X3年6月24日	X3年6月30日
	360,000	現金		
	924,000	普通預金		
	390,000	受取手形		
	987,000	売掛金		
	650,000	繰越商品		
		買掛金	980,000	
		未払配当金	360,000	
		所得税預り金		
		資本金	1,200,000	
		繰越利益剰余金	937,000	
		売上	2,180,000	
		受取家賃	360,000	
	1,488,000	仕入		
	840,000	給料		
	138,000	水道光熱費		
	240,000	支払家賃		
	6,017,000		6,017,000	

第3問 (35点)

次の(1)決算整理前残高試算表および(2)決算整理事項等に基づいて、答案用紙の貸借対照表と損益計算書を完成しなさい。なお、消費税(10%)は売上取引と仕入取引のみから生じるものとし、税抜方式により会計処理を行っている。また、当会計期間はX9年4月1日からX10年3月31日までの1年間である。

(1) 決算整理前残高試算表

決算整理前残高試算表

X10年3月31日

借方	勘定科目	貸方
147,000	現金	
744,000	当座預金白州銀行	
	当座預金山崎銀行	320,000
297,000	電子記録債権	
450,000	売掛金	
	貸倒引当金	6,000
363,000	繰越商品	
489,000	仮払消費税	
462,000	仮払法人税等	
2,700,000	土地	
1,350,000	備品	
3,000,000	車両運搬具	
	備品減価償却累計額	810,000
	車両運搬具減価償却累計額	2,700,000
	電子記録債務	183,000
	買掛金	237,000
	前受金	144,000
	仮受消費税	960,000
	資本金	500,000
	繰越利益剰余金	122,000
	売上	9,600,000
	受取地代	510,000
4,890,000	仕入	
702,000	支払家賃	
279,000	通信費	
147,000	広告宣伝費	
63,000	租税公課	
9,000	固定資産売却損	
16,092,000		16,092,000

(2) 決算整理事項等

- 前受金のうち¥48,000に関して、受注していた商品¥210,000(税抜価額)を引き渡し、消費税とともに代金の残額を掛けとしていたが未処理となっている。
- 期末日の営業時間終了後に現金実査を行ったところ、通貨¥54,000、他人振出小切手¥108,000を確認することができた。また、現金の帳簿残高との差異の原因を調査した結果、期末付近で受け取った地代¥9,000の記帳漏れが判明したが、残額は不明である(雑損または雑益として計上する)。
- 当座預金口座については、いずれの取引銀行とも当座借越契約(限度額はいずれも¥500,000)を締結している。期末に生じている当座借越は、貸借対照表上、借入金として表示する。
- 買掛金¥33,000につき、電子債権記録機関より電子記録債務としての発生記録の通知を受け、これを承諾していたが、貸借逆の会計処理を行っていたことが判明した。
- 売上債権の期末残高に対して3%の貸倒引当金を差額補充法により設定する。
- 期末商品棚卸高は¥386,000(上記1.は考慮済み)である。
- 有形固定資産の減価償却は、次の条件に基づいて、定額法により行う。なお、耐用年数の到来したものについては、その後も使用を継続するため、備忘価額として帳簿価額を¥1とする。  
備品：残存価額ゼロ、耐用年数5年  
車両運搬具：残存価額ゼロ、耐用年数10年
- 支払家賃は店舗兼事務所に係るものであり、数年前から毎年同額を10月1日に向こう1年分支払っている。未経過分は、月割りで計算すること。
- ウェブ広告料金¥96,000につき、請求書を受領しているが何ら会計処理を行っていない。
- はがき¥3,000、切手¥7,000、収入印紙¥8,000(いずれも購入時に費用計上済み)が、期末時点で未使用となっている。
- 消費税について、必要な決算整理を行う。
- 当期の法人税、住民税及び事業税は¥972,000と算定された。仮払法人税等は中間納付額である。

採点欄	
第3問	

3 級 ⑤

商業簿記

第3問 (35点)

貸借対照表

X10年3月31日

(単位:円)

現金及び預金	( )	電子記録債務	( )
電子記録債権	( )	買掛金	( )
貸倒引当金	( )	前受金	( )
売掛金	( )	( )	( )
貸倒引当金	( )	未払金	( )
商品	( )	未払消費税	( )
( )	( )	未払法人税等	( )
前払費用	( )	資本金	( )
土地	( )	繰越利益剰余金	( )
備品	( )		
減価償却累計額	( )		
車両運搬具	( )		
減価償却累計額	( )		
	( )		( )

損益計算書

自 X9年4月1日 至 X10年3月31日

(単位:円)

売上原価	( )	売上高	( )
支払家賃	( )	受取地代	( )
通信費	( )	( )	( )
広告宣伝費	( )		
租税公課	( )		
貸倒引当金繰入	( )		
減価償却費	( )		
固定資産売却損	( )		
法人税、住民税及び事業税	( )		
( )	( )		
	( )		( )

### 仕訳問題の解答にあたっての注意事項

以下の正答例を参考に、仕訳問題における各設問の解答にあたっては、各勘定科目の使用は、借方・貸方の中でそれぞれ1回ずつとしてください（各設問につき、同じ勘定科目を借方・貸方の中で2回以上使用してしまうと、不正解となります）。

ア. 現金      イ. 買掛金      ウ. 仕入

[正答例：勘定科目を借方・貸方の中で1回だけ使用している]

借方科目	金額	貸方科目	金額
ウ	100	ア	20
		イ	80

[誤答例：勘定科目を借方の中で2回使用してしまっている]

借方科目	金額	貸方科目	金額
ウ	20	ア	20
ウ	80	イ	80